

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	最終集計結果	分析(成果と課題)	評価																																																		
(1) 授業改善と専門性の向上	① <授業改善> 育成を目指す資質・能力に基づく目標設定や学習評価及び主体的・対話的で深い学びの観点から授業改善を行う。	担当授業等で目標設定や学習評価、主体的・対話的で深い学びの観点から学習内容や指導方法の工夫改善に取り組んだ職員の割合 A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満  * 授業改善に関連する8項目(ア〜ク)のうち、5項目以上取り組んでいる職員の割合を算出	各教員が実施した項目数の割合 ①7~8項目実施      ②5~6項目実施 ③3~4項目実施      ④0~2項目実施  達成度の割合(単位%) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>①</th> <th>②</th> <th>③</th> <th>④</th> <th>①+②</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小</td> <td>9.1</td> <td>81.8</td> <td>9.1</td> <td>0.0</td> <td>90.9</td> </tr> <tr> <td>中</td> <td>44.4</td> <td>33.3</td> <td>22.2</td> <td>0.0</td> <td>77.7</td> </tr> <tr> <td>高</td> <td>23.8</td> <td>52.4</td> <td>14.3</td> <td>9.5</td> <td>76.2</td> </tr> <tr> <td>分訪</td> <td>50.0</td> <td>50.0</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>100.0</td> </tr> <tr> <td>全体</td> <td>26.7</td> <td>55.6</td> <td>13.3</td> <td>4.4</td> <td>82.3</td> </tr> </tbody> </table>		①	②	③	④	①+②	小	9.1	81.8	9.1	0.0	90.9	中	44.4	33.3	22.2	0.0	77.7	高	23.8	52.4	14.3	9.5	76.2	分訪	50.0	50.0	0.0	0.0	100.0	全体	26.7	55.6	13.3	4.4	82.3	アンケートの結果5項目以上の実施率は小学部 90.9%、中学部 77.7%、高等部 76.2%、分教室・訪問教育 100%であった。全体では82.3%となり、B評価となった。中間評価に比べると④の割合が減り、①の割合が増えている。 項目別に見ると、中間評価同様に児童生徒の興味関心に合わせた学習内容の設定や学習指導要領を基に目標や教材を工夫するでは90%を超え、児童生徒の実態に合わせ、学習指導要領に準拠した授業が意識して行われていることを示している。 80%に満たしていない項目であっても、イ、エ、カ、キは中間評価(39~46%)に比べ、増加している。これらは研究会を重ねたことでの確に学習を評価するための工夫や、学習の意義を示し、対話や生活との関連の中で学んでいくことについて工夫改善に取り組んだ教員が増え授業改善の意識が高まったことを示している。 今後は児童生徒が各授業で「教科の見方・考え方」を働かせ、深く学んでいける授業について研修し、専門性の向上を目指していく。	B 達成														
		①	②	③	④	①+②																																																	
小	9.1	81.8	9.1	0.0	90.9																																																		
中	44.4	33.3	22.2	0.0	77.7																																																		
高	23.8	52.4	14.3	9.5	76.2																																																		
分訪	50.0	50.0	0.0	0.0	100.0																																																		
全体	26.7	55.6	13.3	4.4	82.3																																																		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>8項目</b> ア: 学習指導要領の目標や内容を基に、児童生徒の実態に合わせた目標や教材の工夫をした イ: 「児童生徒にどういった力が身についたか」という学習の成果を的確にとらえるため、評価方法を工夫した ウ: 目標を達成するために児童生徒の興味関心に合わせた教材について工夫した エ: 単元の学習活動がなんのために必要か、「参加してみよう」と思えるストーリー(文脈)が意識できるよう工夫した オ: 自分と他者の意見や考え方を比較したり、自分だけでは気付くことが難しい気付きを得たりしながら、考えを広げたり深めたりできるような学習場面について工夫した カ: 言葉での対話だけでなく、他者や他の物とかかわり合いで学んでいけるように工夫した キ: 単元の学びを生活や他の学習に関連付けて生活に活かせるように工夫した ク: 学習を振り返る場面を設定し、自分が学んだことを確認できるように工夫した</p> </div>	<p>【達成基準】 B (「①+②」=80%以上) 【結果】 B (「①+②」=82.3%)</p> <p><b>8項目</b>ア〜クの実施割合(単位%)  <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>ア</th> <th>イ</th> <th>ウ</th> <th>エ</th> <th>オ</th> <th>カ</th> <th>キ</th> <th>ク</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小</td> <td>100</td> <td>55</td> <td>100</td> <td>82</td> <td>46</td> <td>46</td> <td>55</td> <td>73</td> </tr> <tr> <td>中</td> <td>89</td> <td>78</td> <td>100</td> <td>67</td> <td>33</td> <td>89</td> <td>67</td> <td>67</td> </tr> <tr> <td>高</td> <td>86</td> <td>48</td> <td>95</td> <td>57</td> <td>48</td> <td>76</td> <td>68</td> <td>52</td> </tr> <tr> <td>分訪</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>75</td> <td>25</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>全体</td> <td>91</td> <td>60</td> <td>98</td> <td>67</td> <td>42</td> <td>73</td> <td>67</td> <td>60</td> </tr> </tbody> </table> </p>		ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	小	100	55	100	82	46	46	55	73	中	89	78	100	67	33	89	67	67	高	86	48	95	57	48	76	68	52	分訪	100	100	100	75	25	100	100	50	全体	91	60	98	67	42	73	67	60
	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク																																															
小	100	55	100	82	46	46	55	73																																															
中	89	78	100	67	33	89	67	67																																															
高	86	48	95	57	48	76	68	52																																															
分訪	100	100	100	75	25	100	100	50																																															
全体	91	60	98	67	42	73	67	60																																															
	② <専門性の向上> 専門性の向上を図り、児童生徒の特性や能力に応じ、確かな学びに繋がる授業を展開する。	授業参観等で授業内容に満足している保護者や関係機関職員の割合 A: A+B=90%以上が6項目 B: A+B=90%以上が5項目 C: A+B=90%以上が4項目 D: A+B=90%以上が3項目以下  * アンケートの4項目(ア〜エ)をA~Dの4段階評価の割合で算出	各参観者アンケートの4段階評価の割合 A とてもそう思う      B そう思う C あまり思わない      D 思わない  達成度の割合(単位%) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> <th>A+B</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ア</td> <td>54.9</td> <td>43.1</td> <td>2.0</td> <td>0.0</td> <td>98.0</td> </tr> <tr> <td>イ</td> <td>56.9</td> <td>39.2</td> <td>2.0</td> <td>0.0</td> <td>96.1</td> </tr> <tr> <td>ウ</td> <td>58.8</td> <td>39.2</td> <td>2.0</td> <td>0.0</td> <td>98.0</td> </tr> <tr> <td>エ</td> <td>49.0</td> <td>45.1</td> <td>3.9</td> <td>0.0</td> <td>94.1</td> </tr> <tr> <td>オ</td> <td>56.9</td> <td>37.3</td> <td>5.9</td> <td>0.0</td> <td>94.1</td> </tr> <tr> <td>カ</td> <td>41.2</td> <td>52.9</td> <td>5.9</td> <td>0.0</td> <td>94.1</td> </tr> </tbody> </table>		A	B	C	D	A+B	ア	54.9	43.1	2.0	0.0	98.0	イ	56.9	39.2	2.0	0.0	96.1	ウ	58.8	39.2	2.0	0.0	98.0	エ	49.0	45.1	3.9	0.0	94.1	オ	56.9	37.3	5.9	0.0	94.1	カ	41.2	52.9	5.9	0.0	94.1	後期の学校公開及び授業参観もコロナ禍のため保護者のみを対象に実施した。(アンケート回収率92.3%) 後期からアンケート項目に、左記のオ、カの2項目を追加したが、6項目すべてにおいてA+B評価が90%を超え達成基準を満たした。保護者からの感想やご意見を共有し、よりよい授業実践につなげていく。	A 達成								
	A	B	C	D	A+B																																																		
ア	54.9	43.1	2.0	0.0	98.0																																																		
イ	56.9	39.2	2.0	0.0	96.1																																																		
ウ	58.8	39.2	2.0	0.0	98.0																																																		
エ	49.0	45.1	3.9	0.0	94.1																																																		
オ	56.9	37.3	5.9	0.0	94.1																																																		
カ	41.2	52.9	5.9	0.0	94.1																																																		
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>4項目</b> → 後期より6項目(オ・カ追加) ア: 指導は児童生徒にとってわかりやすい イ: 教員の児童生徒へのかかわりが適切である ウ: 使用されている教材などに工夫がみられる エ: 児童生徒が落ち着いて学習できる環境である オ: 児童生徒が主体的に活動する姿が見られる(追加) カ: 児童生徒が自ら考えを深める工夫が見られる(追加)</p> </div>	<p>【達成基準】 B以上 (「A+B」=90%以上が5項目以上) 【結果】 A (「A+B」=90%以上が6項目)</p>																																																					

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	最終集計結果	分析（成果と課題）	評価																																										
	③ <ICT機器の活用> 児童生徒がICT機器を活用し、主体的に取り組む授業を实践する。	児童生徒自身がICT機器を活用している割合 A：70%以上 B：60%以上 C：50%以上 D：50%未満  ＊個々の児童生徒が1週間でICT機器を活用する使用頻度で算出	各児童生徒自身がICT機器を活用回数の割合 ① 週に4～5回使う 24.6% ② 週に2～3回使う 56.1% ③ 週に1回使う 7.0% ④ あまり（全く）使わない 12.3%  達成度の割合(単位%) <table border="1" data-bbox="965 316 1444 523"> <thead> <tr> <th></th> <th>①</th> <th>②</th> <th>③</th> <th>④</th> <th>①+②+③</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小</td> <td>12.5</td> <td>75.0</td> <td>0.0</td> <td>12.5</td> <td>87.5</td> </tr> <tr> <td>中</td> <td>75.0</td> <td>0.0</td> <td>25.0</td> <td>0.0</td> <td>100.0</td> </tr> <tr> <td>高</td> <td>8.3</td> <td>79.2</td> <td>0.0</td> <td>12.5</td> <td>87.5</td> </tr> <tr> <td>訪</td> <td>0.0</td> <td>50.0</td> <td>50.0</td> <td>0.0</td> <td>100.0</td> </tr> <tr> <td>分</td> <td>33.3</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>66.7</td> <td>33.3</td> </tr> <tr> <td>録</td> <td>24.6</td> <td>56.1</td> <td>7.0</td> <td>12.3</td> <td>87.7</td> </tr> </tbody> </table> 【達成基準】 B以上 （「①+②+③」=60%以上） 【結果】 A（週に1回以上活用 87.7%）		①	②	③	④	①+②+③	小	12.5	75.0	0.0	12.5	87.5	中	75.0	0.0	25.0	0.0	100.0	高	8.3	79.2	0.0	12.5	87.5	訪	0.0	50.0	50.0	0.0	100.0	分	33.3	0.0	0.0	66.7	33.3	録	24.6	56.1	7.0	12.3	87.7	アンケートの結果、全校で児童生徒が1人1台タブレット端末を週に1～5回使用している割合は87.7%でA評価となった。 あまり（全く）使わない児童生徒12.3%は小学部、高等部、分教室で、使用していない理由はそれぞれ「小学部では複数児童への指導で使用する際は操作説明に時間がかかるので、実態に合わせて教員用タブレット端末で個別に指導している」「高等部では一人一台端末が整備されていない」「分教室ではWi-fi環境が整っていない」となっている。現在の機器環境で100%の児童生徒が一人一台端末を活用するのは難しい現状であるが、今後の環境整備で改善されるものと考えられる。	<b>A</b> 達成
	①	②	③	④	①+②+③																																										
小	12.5	75.0	0.0	12.5	87.5																																										
中	75.0	0.0	25.0	0.0	100.0																																										
高	8.3	79.2	0.0	12.5	87.5																																										
訪	0.0	50.0	50.0	0.0	100.0																																										
分	33.3	0.0	0.0	66.7	33.3																																										
録	24.6	56.1	7.0	12.3	87.7																																										
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒自身が、他の児童生徒の様子に関心をもって見たり、真似てやろうとしたり、やる気を出して一緒に取り組んだりすることはとても大切なことである。教師に力がつけば、児童生徒も伸びるので、継続して頑張ってもらいたい。</li> <li>ICT機器は便利だが、充電が切れれば使用できないことから、紙に書いたり、絵・写真カード等を活用したりと従来の支援とも併用した方がよい。音楽でタブレット端末を使用する時は、楽器音は機械音なので、生の音との違いに気をつけて指導するとよい。</li> </ul>																																														
学校関係者評価委員会の評価 結果を踏まえた今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度は授業の計画から評価まで話し合えるように、月1回「授業打ち合わせ会」を実施し、定着が見られる。</li> <li>学校研究では、主体的・対話的で深い学びの視点での授業改善を通して、各教科の資質・能力や各教科の見方・考え方を学ぶ必要がある。来年度の県事業と学校研究を推進しながら、教員の専門性の向上を図っていく。</li> <li>4月には、全校児童生徒用のタブレット端末が揃うため、より効果的な活用を推進していく。</li> </ul>																																														

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	最終集計結果	分析（成果と課題）	評価																																																	
(2) キャリア教育の推進	① <プログラムの活用と改善> 錦城版キャリア教育プログラムを活用し、自己選択や自己決定に関する実践や家庭との連携を図る。（保護者等から情報を得て、生活面や学習面及び進路面について見直し、プログラムの改善を図る。）	自己選択・自己決定の面で向上や広がりが見られた児童生徒の割合 A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満  *個々の児童生徒の自己選択・自己決定の向上や広がりが見られた場面の数で算出  <b>場面について</b> 場面については各担任が「向上や広がりが見られた内容」を挙げ記述	各児童生徒の向上や広がりが見られた場面の数の割合 ① 5場面以上      ② 4場面 ③ 3場面            ④ 2場面 ⑤ 1場面以下  達成度の割合(単位%) <table border="1" data-bbox="965 323 1523 533"> <thead> <tr> <th></th> <th>①</th> <th>②</th> <th>③</th> <th>④</th> <th>⑤</th> <th>①+②+③</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小</td> <td>18.8</td> <td>18.8</td> <td>25.0</td> <td>37.4</td> <td>0.0</td> <td>62.6</td> </tr> <tr> <td>中</td> <td>8.3</td> <td>0.0</td> <td>16.7</td> <td>33.3</td> <td>41.7</td> <td>25.0</td> </tr> <tr> <td>高</td> <td>54.2</td> <td>25.0</td> <td>20.8</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>100.0</td> </tr> <tr> <td>訪</td> <td>0.0</td> <td>100.0</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>100.0</td> </tr> <tr> <td>分</td> <td>66.7</td> <td>33.3</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>100.0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>33.9</td> <td>19.6</td> <td>19.6</td> <td>17.9</td> <td>8.9</td> <td>73.1</td> </tr> </tbody> </table> 【達成基準】 B以上（「①+②+③」=70%以上）  【結果】 B（「①+②+③」=73.1%）		①	②	③	④	⑤	①+②+③	小	18.8	18.8	25.0	37.4	0.0	62.6	中	8.3	0.0	16.7	33.3	41.7	25.0	高	54.2	25.0	20.8	0.0	0.0	100.0	訪	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	分	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	100.0	計	33.9	19.6	19.6	17.9	8.9	73.1	アンケートの結果、全校では、73.1%でB評価となり、達成基準を満たした。小、中学部は未達成であったが、中間評価より小学部約50%、中学部11%上昇している。記述欄では、小学部低学年で排泄場面での意思表示の具体例が多く書かれ、学年が上がる毎に、様々な活動で自己選択・自己決定ができるようになったと挙げられている。中学部では、具体的例というより大まかに内容をまとめたものが多く、そのため場面数のカウントが少なくなり、評価が低く出たと考えられる。高等部、訪問、分教室は多くの具体例が挙げられA評価となった。 職員が児童生徒の成長や障害特性を十分配慮し、個々の自己実現に繋がるよう意識してかわり、指導したと言える。	B 達成
	①	②	③	④	⑤	①+②+③																																																
小	18.8	18.8	25.0	37.4	0.0	62.6																																																
中	8.3	0.0	16.7	33.3	41.7	25.0																																																
高	54.2	25.0	20.8	0.0	0.0	100.0																																																
訪	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0																																																
分	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	100.0																																																
計	33.9	19.6	19.6	17.9	8.9	73.1																																																
		キャリア教育の具体的な取組内容を意識し、家庭等でも取り組もうとしている保護者の割合 A：70%以上 B：60%以上 C：50%以上 D：50%未満  *家庭等で取り組もうとしている保護者の割合で算出	各保護者アンケートの4段階評価の割合 ① 意識し、取り組んだ ② 少し意識し、取り組もうとした ③ 意識はしたが、あまり取り組めなかった ④ 取り組めなかった  達成度の割合(単位%) <table border="1" data-bbox="965 879 1469 1027"> <thead> <tr> <th></th> <th>①</th> <th>②</th> <th>③</th> <th>④</th> <th>①+②</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小</td> <td>6.7</td> <td>66.6</td> <td>20.0</td> <td>6.7</td> <td>73.3</td> </tr> <tr> <td>中</td> <td>12.5</td> <td>50.0</td> <td>25.0</td> <td>12.5</td> <td>62.5</td> </tr> <tr> <td>高</td> <td>35.0</td> <td>40.0</td> <td>25.0</td> <td>0.0</td> <td>75.0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>20.9</td> <td>51.2</td> <td>23.3</td> <td>4.6</td> <td>72.1</td> </tr> </tbody> </table> 【達成基準】 B以上（「①+②」=60%以上）  【結果】 A（「①+②」=72.1%）		①	②	③	④	①+②	小	6.7	66.6	20.0	6.7	73.3	中	12.5	50.0	25.0	12.5	62.5	高	35.0	40.0	25.0	0.0	75.0	計	20.9	51.2	23.3	4.6	72.1	アンケートの結果、全体としては72.1%でA評価となり、達成基準を満たした。「意識し、取り組んだ」①の割合は、学部が上がるにつれ増えている。記述欄の小、中学部は「時間の意識、身辺自立、本人の気持ちの尊重」など、高等部では「コミュニケーションや情緒面での成長を促す、困った時は、自ら発信する」などが挙げられ、各部ともに意識が高いと言える。取り組めなかった理由は「ハードルが高い、時間に余裕が無い」などが挙げられたが、高等部は「取り組めなかった」が0%であり、将来の就労への真剣な取り組みが伺える。また、「4月からプログラムを参考にレベルアップしていきたい」など前向きな意見も挙げられた。 今年度末に、キャリア教育学習プログラム取組表の内容改善を行ったので、さらに家庭と連携を密にし、家庭の中でも取り組めるよう働きかけていく。	A 達成																			
	①	②	③	④	①+②																																																	
小	6.7	66.6	20.0	6.7	73.3																																																	
中	12.5	50.0	25.0	12.5	62.5																																																	
高	35.0	40.0	25.0	0.0	75.0																																																	
計	20.9	51.2	23.3	4.6	72.1																																																	
	② <進路支援の充実> 「進路の手引き」や「はじめの一步」映像を活用しキャリア教育や進路支援の充実を図る。	進路支援に繋がる情報を得て、授業や保護者・地域との関わりに活かしている職員の割合 A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満  *進路支援に繋がる情報を教員が活用できた5項目の合計回数で算出	各教員が進路支援情報を活用した5項目の合計回数の割合 ① 4回以上活用      ② 3回活用 ③ 2回活用            ④ 1回活用 ⑤ 0回（活用できなかった）	アンケートの結果、全体で81.4%とA評価となり達成基準を満たした。小学部90.9%、中学部87.5%、高等部85%、訪問では、後期に教科指導の面で活用する場面が見られ100%となった。分教室では、コロナ禍の影響も関連し、各関係機関との連携が難しくなり、活用する場面が減ったため0%であった。年間を通して児童生徒一人一人に合った学習計画を立て「進路支援の手引き」「はじめの一步」を的確な場面で有効に活用できたと言える。	A 達成																																																	

		<b>5項目</b> (活用できた場面や内容等) ・保護者懇談時 ・教科の指導 ・進路指導、進路学習 ・各関係機関との連携 ・その他	達成度の割合(単位%) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>①</th> <th>②</th> <th>③</th> <th>④</th> <th>⑤</th> <th>①+②</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小</td> <td>81.8</td> <td>9.1</td> <td>0.0</td> <td>9.1</td> <td>0.0</td> <td>90.9</td> </tr> <tr> <td>中</td> <td>62.5</td> <td>25.0</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>12.5</td> <td>87.5</td> </tr> <tr> <td>高</td> <td>85.0</td> <td>0.0</td> <td>5.0</td> <td>5.0</td> <td>5.0</td> <td>85.0</td> </tr> <tr> <td>訪</td> <td>100</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>100.0</td> </tr> <tr> <td>分</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>100</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> </tr> <tr> <td>鉢</td> <td>74.4</td> <td>7.0</td> <td>2.3</td> <td>11.6</td> <td>4.7</td> <td>81.4</td> </tr> </tbody> </table> <b>【達成基準】</b> B (「①+②」=70%以上) <b>【結果】</b> A (「①+②」=81.4%)		①	②	③	④	⑤	①+②	小	81.8	9.1	0.0	9.1	0.0	90.9	中	62.5	25.0	0.0	0.0	12.5	87.5	高	85.0	0.0	5.0	5.0	5.0	85.0	訪	100	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	分	0.0	0.0	0.0	100	0.0	0.0	鉢	74.4	7.0	2.3	11.6	4.7	81.4	今後も「進路支援の手引き」、「はじめの一歩」、映像資料について現状に合った情報を素早く伝え、活用しやすいものにする。また、職員の知識向上と保護者・地域との関わりの場面が一層広がり、それを活かせるような研修会を計画・実施していく。
	①	②	③	④	⑤	①+②																																															
小	81.8	9.1	0.0	9.1	0.0	90.9																																															
中	62.5	25.0	0.0	0.0	12.5	87.5																																															
高	85.0	0.0	5.0	5.0	5.0	85.0																																															
訪	100	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0																																															
分	0.0	0.0	0.0	100	0.0	0.0																																															
鉢	74.4	7.0	2.3	11.6	4.7	81.4																																															
学校関係者評価委員会の評価		・キャリア教育では、保護者と協力して、錦城版キャリア教育プログラムをもっと活用し、家庭での役割や手伝いができるようになるとよい。保護者にアンケートをとることでより意識が高まると思う。 ・キャリア教育の視点からも、校内の中でも小中高のつながりや地域とのつながりがあるとよい。																																																			
学校関係者評価委員会の評価 結果を踏まえた今後の改善策		・児童生徒ができるようになるためには保護者も根気よく支援したり、手を出さずに見守ったりすることが必要。家族の一員としての役割が果たせるような取り組みを一緒に検討する。保護者アンケートは継続する。 ・保護者も交えた研修会を開催し、進路のことや療育(家庭支援)のことについて一緒に学ぶことができるとよい。企画・実施できるように育友会とも連携して計画していく。																																																			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	最終集計結果	分析(成果と課題)	評価																																										
(3) 安心・安全な学校づくり	① <危機管理意識の向上> マニュアルやヒヤリハット等を参考に日常の安全管理に留意した行動をとり、事故防止や健康管理を行う。	マニュアルやヒヤリハット、事故報告等を参考に日常の安全管理に留意した行動をとっている職員の割合 A: 100% B: 90%以上 C: 80%以上 D: 80%未満 *安全管理に関する5項目中4項目以上実施したと回答した教員の割合で算出	各教員が実施した項目数の割合 ① 5項目実施                      ② 4項目実施 ③ 3項目実施                      ④ 2項目実施 ⑤ 1項目実施 達成度の割合(単位%) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>①</th> <th>②</th> <th>③</th> <th>④</th> <th>⑤</th> <th>①+②</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小</td> <td>30.8</td> <td>46.2</td> <td>15.4</td> <td>7.7</td> <td>0.0</td> <td>76.9</td> </tr> <tr> <td>中</td> <td>50.0</td> <td>40.0</td> <td>10.0</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>90.0</td> </tr> <tr> <td>高</td> <td>63.6</td> <td>13.6</td> <td>18.2</td> <td>0.0</td> <td>4.5</td> <td>77.3</td> </tr> <tr> <td>分</td> <td>0.0</td> <td>100.0</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>100.0</td> </tr> <tr> <td>鉢</td> <td>47.9</td> <td>33.3</td> <td>14.6</td> <td>2.1</td> <td>2.1</td> <td>81.3</td> </tr> </tbody> </table> <b>【達成基準】</b> B以上 (「①+②」=90%以上) <b>【結果】</b> C (「①+②」=81.3%)		①	②	③	④	⑤	①+②	小	30.8	46.2	15.4	7.7	0.0	76.9	中	50.0	40.0	10.0	0.0	0.0	90.0	高	63.6	13.6	18.2	0.0	4.5	77.3	分	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	鉢	47.9	33.3	14.6	2.1	2.1	81.3	最終アンケートの結果、「①+②」の全体の割合は81.3%で、中間評価より若干上がったものの、達成基準には達しなかったが、④⑤の割合が減ったことに関しては評価できる。 項目別で見ると、項目ウ、エではそれぞれ13名が実施しておらず、防火管理責任箇所の見回りは行ったが、整理まではしていない、項目エでは避難訓練等の実施前に、危機管理マニュアルを回覧しなかったことなどが要因と考えられる。 今後は、職員の安全意識を更に高められるよう取り組み、共通理解したうえで説明等を行い職員全員が取り組むように推進していく。	C 未達成
	①	②	③	④	⑤	①+②																																									
小	30.8	46.2	15.4	7.7	0.0	76.9																																									
中	50.0	40.0	10.0	0.0	0.0	90.0																																									
高	63.6	13.6	18.2	0.0	4.5	77.3																																									
分	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0																																									
鉢	47.9	33.3	14.6	2.1	2.1	81.3																																									
<b>5項目</b> ア: 教室、廊下、手洗い場等のゴミを処分するなど、衛生面に気を付けた イ: 教員の目が届いていない場面や死角になる場所がないか気を配った ウ: 防火管理責任箇所の見回りや整理を行った。防火管理責任箇所のない人は気づいた箇所の整理を行った エ: 危機管理マニュアル(個別のものを含む)を確認し、理解した オ: 授業等でのヒヤッとしたことを他の教員と共通理解し、防止に努めた																																															

② <健康・安全・防災に関する教育活動の充実>  
健康・安全・防災に関する授業や行事等において実践を行う。

新型コロナウイルス感染症に対応した指導及び学校安全計画に即した指導を行っている職員の割合

- A : 100%
- B : 90%以上
- C : 80%以上
- D : 80%未満

\*各課の5項目の実施状況を4段階で評価し、「十分行った+行った」と答えた教員の割合で算出

各教員が指導した4段階評価の割合

- ① 十分行った                      ② 行った
- ③ あまり行えなかった        ④ 全く行わなかった

【保健課】達成度の割合(単位%)

	ア	イ	ウ	エ	オ	平均
小	100	100	100	100	92.3	98.5
中	100	100	100	100	90.0	98.0
高	100	100	100	100	95.5	99.1
分	100	100	100	100	0.0	80.0
鉢	100	100	100	100	87.5	97.5

【達成基準】 B以上 (「①+②」=90%以上)

【結果】 B (「①+②」=97.5%)

【指導課】達成度の割合(単位%)

	カ	キ	ク	ケ	コ	平均
小	84.6	100	100	69.2	100	90.8
中	100	100	90.0	70.0	80.0	88.0
高	95.5	100	100	95.5	100	98.2
分	66.7	0.0	100	0.0	33.3	40.0
鉢	91.7	93.8	97.9	77.1	91.7	90.4

【達成基準】 B以上 (「①+②」=90%以上)

【結果】 B (「①+②」=90.4%)

【保健課】

学校では手洗いやマスクの着用、三密の回避等の指導や対策が定着し、どの項目でも高い数値が得られた。中間評価で、100%の数値を得られなかった小学部アとウ、高等部イとウ、分教室アの項目でも、最終評価では100%となった。1月中旬の段階でオミクロン株の感染拡大に対し、本校が早めにレベル3(最高レベル)の警戒態勢をとったことが反映されたものと考えられる。

ただし、項目オに関しては、中間評価より約5ポイント向上したものの、他の項目よりも低い数値となった。「保健だより」等で変異株に対する注意を喚起するだけでなく、変異株をわかりやすく指導する工夫が必要と考えられる。

【指導課】

最終アンケートの結果、カキクコの4項目で90%を超え、全体平均で90.4%とB評価を得ることができた。しかし、項目ケは全体平均で77.1%と低い評価となった。これについては、職員の中で、「避難経路の確保」を重視していたことから、今年度は除雪する程の雪が降らず、避難経路の除雪をしていないことで評価が低かったのではないかと推測される。また、登下校時の路面の凍結による「滑りやすい」ところでの支援や、授業「雪遊び」の中で怪我防止に気を付けるなどの説明不足も評価が低かった要因の一つであると思われる。このことから職員が共通理解できるように説明等を行い、安全・防災についての指導を徹底するように努めていく。

B  
達成

【保健課】5項目

ア：児童生徒に丁寧な手洗いや適切なマスクの着用、食事場面の配慮(黙食)を行うように指導した。

イ：児童生徒が密集しないように常時気をつけて指導、または環境設定した

ウ：児童生徒が近距離で会話したり交流(密接)したりしないように指導または、環境設定した

エ：授業やその他の学校生活において教室等活動場所の換気をおこなった

オ：変異株(デルタ株やオミクロン株)の流行により、これまで以上に感染防止に気をつける必要があることを児童生徒に指導した

【指導課】5項目

カ：長期休業にあたり生活・交通・災害に関する指導をした

キ：地震時の避難訓練にあたり、安全な避難について指導した

ク：事故報告書(ヒヤリ・ハット報告書)を読み、事故防止のために適切に行動した

ケ：降雪時(積雪時)に児童生徒の安全確保のために適切に行動した

コ：学校安全計画に基づき授業で安全な行動について指導した

学校関係者評価委員会の評価

- ・事故報告だけでなくヒヤリハットの報告が多く集まると、重大な事故につながりにくくなり、教員の安全意識の向上にもつながる。
- ・コロナ禍で、感染症に対する指導はよく行っていたが、その分、全校児童生徒が一同に介して、避難訓練等の安全教育を行うことが難しかった。教員の研修会もリモートで行ったり動画を視聴したりすることが多かったため、安全教育に対する取り組みがやや弱くなったかもしれない。

学校関係者評価委員会の評価  
結果を踏まえた今後の改善策

- ・新型コロナウイルス感染症対策の他にも、様々な自然災害等にも適切に対応できるように安全教育や危機管理マニュアルの見直し、検討を行っていく。

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	最終集計結果	分析（成果と課題）	評価																																																																																										
(4) 業務の平準化と効率化の工夫	① <平準化の推進と効率化の工夫> 校務分掌における業務の平準化を推進し、各自が業務の効率化を工夫する。	校務分掌における業務の平準化に取り組み、昨年度より業務の効率化を工夫している職員の割合 A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満  *業務の平準化や効率化に関連する7項目（ア～キ）のうち、4項目以上取り組んでいる職員の割合を算出	各教員が実施した項目数の割合 ① 5項目以上実施      ② 4項目実施 ③ 3項目実施          ④ 2項目実施 ⑤ 1項目実施  達成度の割合(単位%) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>①</th> <th>②</th> <th>③</th> <th>④</th> <th>⑤</th> <th>①+②</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小</td> <td>30.8</td> <td>38.4</td> <td>15.4</td> <td>15.4</td> <td>0.0</td> <td>69.2</td> </tr> <tr> <td>中</td> <td>70.0</td> <td>0.0</td> <td>10.0</td> <td>20.0</td> <td>0.0</td> <td>70.0</td> </tr> <tr> <td>高</td> <td>31.8</td> <td>31.8</td> <td>18.2</td> <td>9.1</td> <td>9.1</td> <td>62.6</td> </tr> <tr> <td>分</td> <td>66.7</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>33.3</td> <td>0.0</td> <td>66.7</td> </tr> <tr> <td>全体</td> <td>41.7</td> <td>25.0</td> <td>14.6</td> <td>14.6</td> <td>4.1</td> <td>66.7</td> </tr> </tbody> </table> 【達成基準】 B以上 （「①+②」=70%以上） 【結果】 C （「①+②」=66.7%）  7項目ア～キの実施割合(単位%) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>ア</th> <th>イ</th> <th>ウ</th> <th>エ</th> <th>オ</th> <th>カ</th> <th>キ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小</td> <td>77</td> <td>46</td> <td>31</td> <td>62</td> <td>85</td> <td>69</td> <td>23</td> </tr> <tr> <td>中</td> <td>70</td> <td>70</td> <td>70</td> <td>70</td> <td>80</td> <td>60</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>高</td> <td>64</td> <td>41</td> <td>41</td> <td>68</td> <td>73</td> <td>86</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>分</td> <td>0</td> <td>33</td> <td>100</td> <td>67</td> <td>0</td> <td>100</td> <td>67</td> </tr> <tr> <td>全体</td> <td>65</td> <td>48</td> <td>48</td> <td>67</td> <td>71</td> <td>77</td> <td>25</td> </tr> </tbody> </table>		①	②	③	④	⑤	①+②	小	30.8	38.4	15.4	15.4	0.0	69.2	中	70.0	0.0	10.0	20.0	0.0	70.0	高	31.8	31.8	18.2	9.1	9.1	62.6	分	66.7	0.0	0.0	33.3	0.0	66.7	全体	41.7	25.0	14.6	14.6	4.1	66.7		ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	小	77	46	31	62	85	69	23	中	70	70	70	70	80	60	40	高	64	41	41	68	73	86	14	分	0	33	100	67	0	100	67	全体	65	48	48	67	71	77	25	アンケートの結果、4項目以上実施した職員の割合は全体として66.7%で、中間評価よりも増えたが、B評価には達しなかった。どの部も実施した項目が2項目以下の職員数は減り、6割以上の職員が業務の平準化に取り組み、業務の効率化を工夫している。 また、項目別に見ると、7項目の中で、項目オ、カは中間に引き続き実施割合が高く、項目ア、エは改善が見られ実施割合が高くなった。中間、最終共に低かった項目イについては、既に業務が偏らない工夫をし、確認が不要な課もあった。また、項目ウについては、年度末に向けて話し合いを行い、改善していく。 全ての課で、課のハンドブックや年間業務計画表を作成することで、来年度からはいつからどの業務に取り組めばよいかを明記し、多忙な時期が各部の行事や係の仕事と重ならないように計画の段階から見通しをもって取り組めるようにする。効率よく業務に取り組み、チームで協力し合って準備・実施していけるように努めていく。	C 未達成
	①	②	③	④	⑤	①+②																																																																																									
小	30.8	38.4	15.4	15.4	0.0	69.2																																																																																									
中	70.0	0.0	10.0	20.0	0.0	70.0																																																																																									
高	31.8	31.8	18.2	9.1	9.1	62.6																																																																																									
分	66.7	0.0	0.0	33.3	0.0	66.7																																																																																									
全体	41.7	25.0	14.6	14.6	4.1	66.7																																																																																									
	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ																																																																																								
小	77	46	31	62	85	69	23																																																																																								
中	70	70	70	70	80	60	40																																																																																								
高	64	41	41	68	73	86	14																																																																																								
分	0	33	100	67	0	100	67																																																																																								
全体	65	48	48	67	71	77	25																																																																																								
<b>7項目</b> ア：各課等での業務の行事等の見直しや精選について考え、建設的な意見を言った イ：複数で担当している各課等の業務で負担が偏らないように進捗状況を確認し合い、協力した ウ：各部での業務や行事等の見直しや精選について考え、建設的な意見を言った エ：複数で担当している各部の業務で負担が偏らないように協力し、準備・実施した オ：TTの授業では、MTまたはSTと連携・協力し、授業準備や教材製作等に取り組んだ カ：会議の効率化（資料の前日配付、事前に目を通す、終了時間を意識して話す等）に一層努めた キ：上記以外で、各自でできる業務の効率化について考え、実施している																																																																																															
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価は未達成であったが、7割近くの教員が業務の平準化や業務効率化のための工夫を行っている。</li> <li>・教員はより良いものにしようと検討し出すと時間が足りず、時間外勤務が増える。働き方改革での取り組みは継続して行い、業務の平準化等も工夫して行えるとよい。</li> </ul>																																																																																														
学校関係者評価委員会の評価 結果を踏まえた今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度に全ての課で作成した「年間業務計画表」をもとに来年度は見通しをもって取り組む。円滑に業務の遂行ができるように複数の教員で仕事を分担する。各課の業務が多忙な時期と各部の係等が集中しないように、各部で役割分担や係決めをする時に個人に負担が偏らないように配慮・協力し、年度当初から計画的に平準化に取り組んでいく。</li> <li>・教材や情報の共有化等でタブレット端末の活用も含めた業務の効率化を検討していく。</li> </ul>																																																																																														